



命育む緑を後世に。

奥池公園にどんぐりの苗木8百本を植樹



衛生機器メーカー「TOTO」(本社:北九州市)による森づくりの活動で、4月26日にどんぐりの苗木8百本が奥池公園(弁城)に植樹されました。地域のみなさんや町内保育所の園児、町議や町職員も参加。TOTO社員やその家族も含めた約2百人が連携し、公園の斜面に手作業で苗木を植えました。「命を育む緑を後世に残したい」という思いを込めて、メッセージを記したボードが、支柱とともに添えられました。



「今年に入ってから、田川地区の交通事故死亡者が増えているという。福智町内でも、先日、悲しい事故が発生した。現場は、直方、田川ハイバスの田川市との境にある。交通量が多く、しかもほとんどの車がスピードを出して走行しており、危険性の高い場所と言える。通常、事故の原因として、不注意、運転の未熟さ、交通ルール違反、そして他者運転の車による巻き添え等が考えられるが、今回、どのようなことで悲劇につながったのかは、わからない。しかし、死という事実は変えることができないので、わたしたちとしては、亡くなったかたのご冥福を祈るばかりである」とは言え、再びこうした事故を繰り返してはならないとの強い思いから、先月13日に、福智町交通安全推進協議会と田川警察署の合同で、交通安全キャンペーン(セーフティেশション)を行った。全町的な取り組みではなかったが、少しでも安全運転の意識が広がればと願っている。ところで、飲酒運転が絶えないのは、どうしてだろうか。社会から大変厳しい指摘があるにもかかわらず、連日のようにマスコミで報道されており、いっこうに無くなる気配がない。人間は、現実には直面しないとわからない存在だと言われているが、それでは遅過ぎるのだ。お互いに、取り返しがつかない事態になる前に、理性と自制心を働かせたい。そして、交通事故による不幸な事例が皆無にならない。な車社会を築いていかなければならない。

浦田 弘二